

メーサイ病院看護師が1カ月間医療視察

タイのメーサイ市から日本の医療視察のために来日した看護師2人は、10月1日に日本に到着し、約1カ月間にわたって城西病院を中心に、日本の医療を視察してきました。2人は10月30日に帰国する予定で、「日本で学んだことをタイで生かしたい」と話していました。

来日した2人は、城西病院と友好病院の関係を結ぶメーサイ病院に勤務する透析センターのポンパン・ソムヨンさん（通称ポンさん）と救急部のサイサモン・ペンパンさん（通称エーさん）です。ポンさんは主に透析センター、エーさんは主に手術室を中心に視察を重ねてきました。

平成 27 年 10 月 26 日



ポンパン・ソムヨンさん（愛称、ポン）

チェンライ出身。2005年4月にボロマラジョナニ看護専門学校を卒業。メーサイ病院の分娩室から平成27年2月から血液透析センターに勤務。

メーサイ病院の透析は始まったばかりで、週2回、午前中だけ行っています。透析の患者さんは増えています。11月からは午前、午後も行います。

日本の技術はすごく、オンラインで患者さんの状態を知ることができます。タイでもその技術入れてほしい。日本の病院は患者さんのケアをとても丁寧にしていただけが印象的でした。

サイサモン・ペンパンさん（愛称、エー）

チェンライ出身。2008年にボロマラジョナニ看護大学を卒業。メーサイ病院の救急部に配属され、救命救急診療で緩和ケアに従事。



メーサイ病院では、1日100人以上が救急車で運ばれ、300人の患者が外来に来ます。救急車で運ばれる1割が交通事故です。日本では交通事故の場合、救急車から事故の状況まで細かく病院に連絡が来ます。タイでもすぐに取り入れたい。日本の病院の患者さんのケアもとても丁寧。タイでは患者さんが多すぎ、家族に指導するだけです。